

イノシシ・シカにおける

防護柵（ワイヤーメッシュ・電気柵）による対策

奈良県南部農林振興事務所

防護柵を設置するだけでは、持続的な効果は、得られない！

→設置以降の侵入事例等

- ①柵の下からの潜り込み
- ②道路からの進入
- ③河川や水路、谷からの侵入
- ④柵の内側に潜み場がある
- ⑤上部からの飛び込みなどがあります。



防護柵を設置する前に、集落・地域のみならず、勉強・集落点検し、獣の正しい情報（特性や生態）を共有し、獣が集落にやってくる原因を多くの人に知ってもらうなど合意形成を得た後に設置し、その効果を持続させるために定期的な点検・メンテナンスを行っていくことが必要です。また、被害防止対策は以下のとおり①～④を総合的に取り組むことが必要です。

対策

- ①集落周辺に獣のエサ場をつくらない。
- ②集落周辺に獣が安心して過ごせる場所・近寄れる場所をつくらない。
- ③防護柵の設置や出没した獣の追払いを行う。
- ④①～③を行い、被害がとまらないようなら、捕獲・駆除を行う。

このように、防護柵の設置は対策の一つで、その効果を持続させていくために以下の手順で設置の検討をすすめていくことが必要です。

1. 設置前には、ルート設計や施工方法を検討する

イノシシ・シカの習性・特徴、侵入原因をよく理解したうえで

- ①設置後に点検を行いやすいようにする。
 - 管理道をつくり、柵周辺部はきれいに管理する。
 - ・柵内にヤブはのこさない。（隠れ場所をつくらない。）
 - ②侵入されやすい箇所をつくらないようにする。
 - 隙間をなくすとともに、傾斜地での設置などには注意する。
- ①・②を十分に考え、設置ルートや施工方法を検討する。

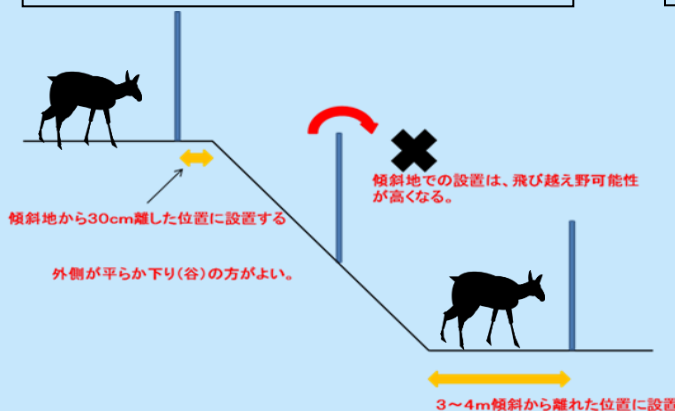


2. 適正に防護柵を設置する。

防護柵設置の3原則

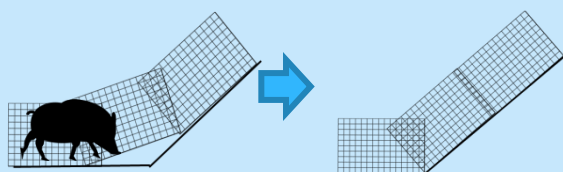
- ① 農作物の味を覚えさせない。
- ② 「潜り込める」・「飛び越せる」とは思わせない。
- ③ 柵の設置は適正に（通電しない電柵はかたづける）

傾斜地での防護柵の設置



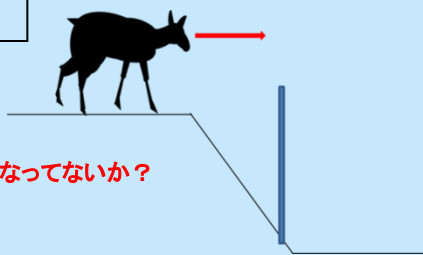
防護柵の隙間をなくす

- ① 地面の凹凸を無くし設置しましょう。
- ② 金網を重ねたり、小さく切ったものを使い、すき間のないように設置しましょう。（通り抜けできない小さなすき間でも徐々に広げ侵入します。）



獣の目線にたって設置

シカが飛び越えることができると感じる高さになってないか？

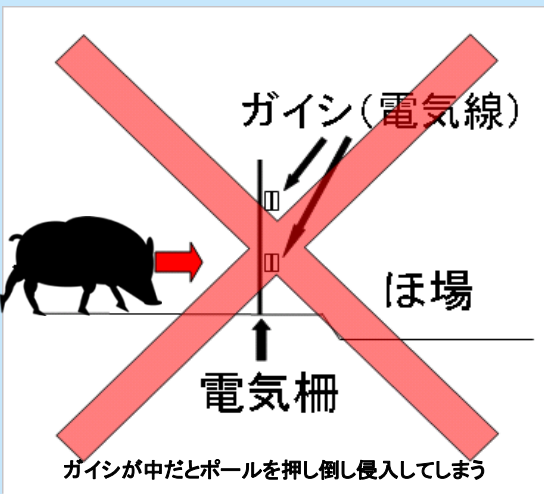
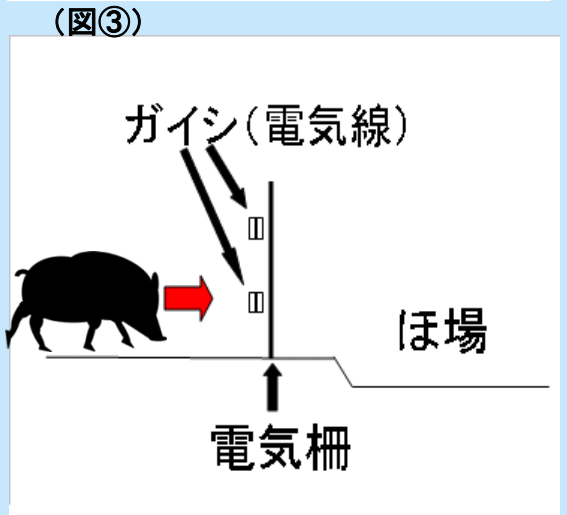
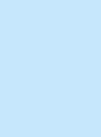
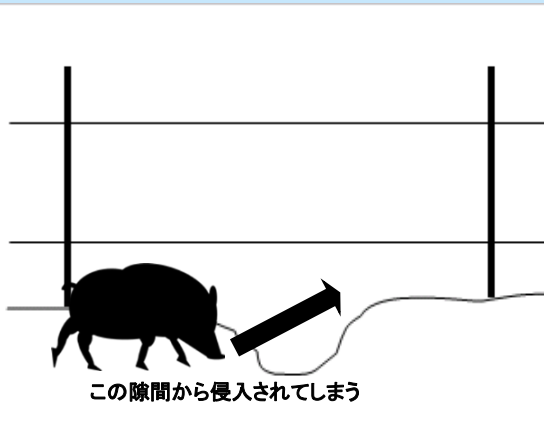
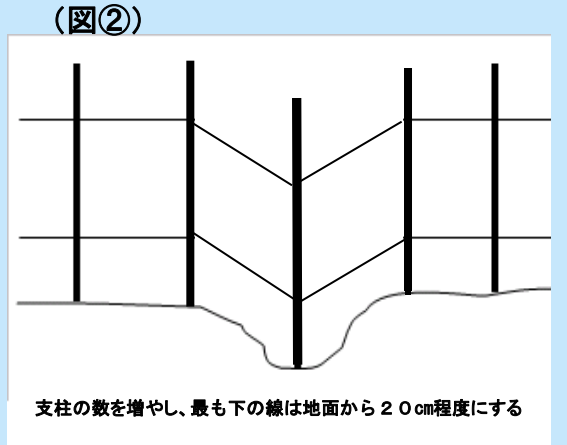
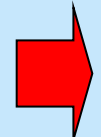
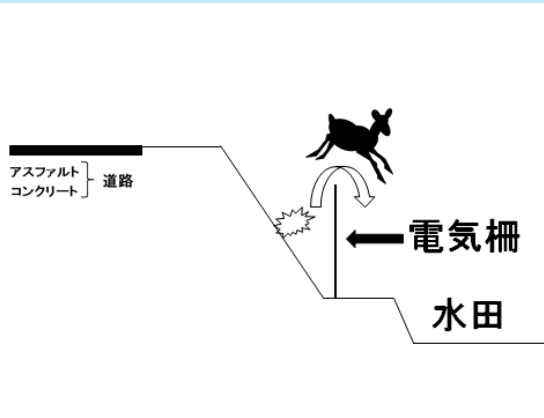
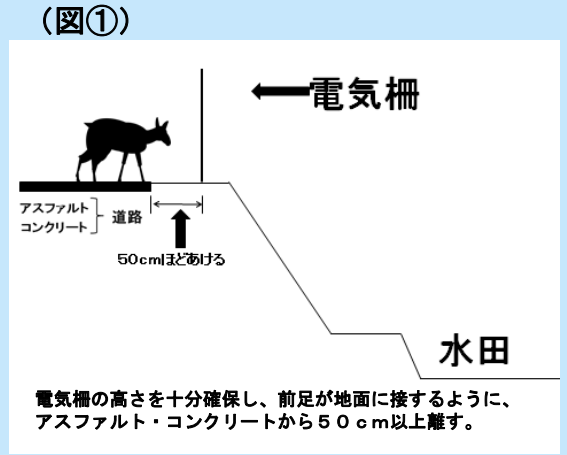
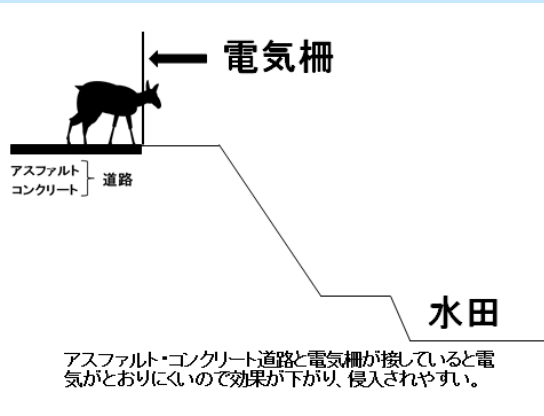


ワイヤーメッシュ柵の設置の留意点

- ・支柱は2～3m間隔で設置。（地形が変化する地点は、隙間ができやすいので、細かく設置する）
- ・地際や継ぎ目のすき間をなくす。設置の際は凸凹がないようにできるだけ整地する。
- ・柵の下を強化する。（イノシシの鼻での持ち上げや潜り込みを防ぐため、直管パイプで地際部を補強し、ペグなどでおさえる。）
- ・柵の外側に十分な緩衝帯を設ける。
- ・ワイヤーメッシュの設置の場合、外側を縦線にする。（横だと引っ張り溶接がはずれる場合がある）
- ・外側からの押す力に耐える構造にする。
- ・外側のすそに金網等を設置し、穴を掘って侵入しないようにする。
- ・定期的（月に1回以上：こまめに実施）なメンテナンス・点検を行う。
- ・定期的なメンテナンス・点検を行いやすいように設置を考える。
- ・傾斜地の途中に柵を設置の際は、十分な高さを確保する。
- ・柵の内側に目隠しとしてトタン等を設置すると効果的となる。
- ・柵際の作付けをやめ、作物が柵からはみださないようにする。
- ・ワイヤーメッシュ柵の線径は4.0mm以上がよい。
- ・うり坊など侵入されないように編み目の大きさは10cm以下がよい。
- ・シカの侵入が予想される場合、高さ1.8～2m程度の柵が必要となる。



電柵設置の注意ポイント



電気柵の設置の留意点

- ・ 獣種にあわせて電気線の高さは適正に設置する。
 - ①イノシシの場合、20cmと40cmの2段が基本。心配な場合は60cmにも追加。
 - ②シカの場合、30cm、60cm、90cm、120cmに設置。
 - ③シカ、イノシシ兼用の場合、20cm、40cm、60cm、90cm、120cmに設置。
- ・ 電圧は、4000ボルト以上必要。
 - ①雑草等による漏電がないようにする。→漏電の原因を取り除く。
 - ②電柵の外側が、アスファルトやコンクリートでは効果がでない。
→前足が地面に接するように、コンクリートから50cm以上離す（図①参照）か、線の下にトタンなどの金属をひき端を土に埋めておく。
- ・ 傾斜地の途中に柵を設置の際は、十分な高さを確保する（図①参照）とともに線の段数を増やす。
- ・ 支柱は4～5m間隔で設置。（地形が変化する地点は、隙間ができやすいので、細かく設置する（図②参照））
- ・ 設置の際は凸凹がないようにできるだけ整地する。どうしても段差ができる場合は、線の張り方を工夫し、最も下の線は地面から20cm程度が望ましい。（図②参照）
- ・ ガイシは、圃場の外側を向くように設置する。（図③参照）
- ・ 電柵は空中で触れても通電しないため、線と線の間を飛びこみできないようワイヤーメッシュと併用する等、通電させるように工夫する。
- ・ 柵の外側に十分な緩衝帯を設ける。
- ・ 定期的（月に1回以上：こまめに実施）なメンテナンス・点検を行う（電圧測定、除草等）。
- ・ 設置前に防護柵の効果を発揮できるように、また設置後にメンテナンス・点検を行いやすいように設計する。
- ・ 既存のネット・トタン・金網柵を活かし、その外側に電気柵を設置したり、中が見えないよう目隠しを行うのも有効的である。
- ・ アースの効果は、数kmまでであるが、適切に設置しないと効果は低くなる。
 - ①湿り気の多い地面に設置②アース棒の間隔は広くし、深く埋める。
- ・ 終日通電しておく。栽培終了後で通電していない電柵は設置しておかず、かたずける。
- ・ 電気柵設置にあたっては、電気事業法で設置方法が定められており、危険表示し、開閉器（スイッチ）があり、適合する電気柵用電源装置から電気供給をうけ、漏電遮断器の設置が必要。

3. 設置後の定期的な点検と、補修は不可欠

- ・ 点検や補修をきっちりと行う
集落・地域の侵入防止柵の効果は継続して高い。

- ・ 集落・地域で等で定期的な点検を継続的に実施する体制をつくるのが重要です。



- ・ 防護柵の点検や補修は、こまめに行うことが必要です。

最低月1回以上は行いましょう！

奈良県南部農林振興事務所 農業普及課

五條市西吉野町湯塩1345

TEL:0747-24-0131

FAX:0747-24-0134

野生獣対策を前提とした圃場設計例

